

子どもたちの未来を応援したい！ 「知と人材の拠点」として 教育現場で貢献

静岡大学は、国立大学ならではの知見と人材を活かして、県内の小・中学校、高校と連携・協働しています。
いま、子どもたちが直面している課題の解決や、将来の可能性を広げる活動など、
さまざまなテーマを通して、本学の研究者、学生たちも学び、教育・研究の進化につなげています。

レジリエンス (精神的回復力)

困難な状況から立ち直る力を身につける授業を実践

教育学部的小林朋子教授は、2013年から学校との協働で始めた「子どもたちのレジリエンスを育てる活動」を、現在、静岡県内を中心に多くの学校に広げています。附属静岡中学校との実践は、ジャパンレジリエンスアワード2023を受賞しました。社会の変化が早く予測困難なVUCA時代に、将来にわたって一人ひとりの「生きる」を支える力になることが期待されています。

事例 2022年度からSEL (Social and Emotional Learning) として特別講座を開設した静岡学園中学校・高等学校では、小林教授が心技体の3つで構成されるレジリエンスについて、実践法を身につける授業を行っています。



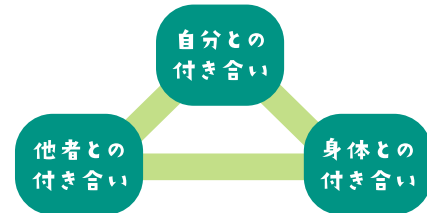
※写真提供：静岡学園中学校・高等学校

VUCA時代を生きるために 必要な力を楽しく学んでいます

小林朋子

教育学部 教授 子どもレジリエンス研究所所長

学校での実践の中で、教師による授業だけでなく、子どもたちが先生役になって、同級生に授業を行うという子どもの主体性を活かした取り組みもしています。ストレスは時代や環境とともに変化しており、その対処法を、子どもたちが主体的に学べるよう現場の先生方と一緒に考えています。



スポーツや勉強で実践したら落ち着いて結果を出せた

生活の改善につながった



キャリア教育 (将来に向けて)

「働く」イメージを地域企業とともに伝える活動

本学の学生支援センターには、「キャリアサポート部門」という組織があります。キャリア教育の専門家であり、多くの地域企業とつながりがあることから、中高生が将来の仕事のイメージを持つ重要性に目を向けるプログラムを学校と連携して企画しました。

事例 静岡市立南中学校の2年生約160名対象の「中学生を地域企業で育てるキャリア教育プログラム」では、静岡市内の企業13社の協力を得て職場体験としての工場や現場見学、説明会を行いました。

働く大人の姿に触れる機会を創出

社会に役立つことをしているという誇りや仲間と達成感を分かち合う喜びを想像

将来、地域で働き、成長していく自分の姿を思い描けるようになる

どの会社も地域とつながっていて、みんなの暮らしを支えていることがわかった

働くことへの印象が変わった



株式会社駿河生産プラットフォームにて

受験勉強をする前に考えてほしいこと・理解してほしいこと

宇賀田 栄次

学生支援センター キャリアサポート部門 教授

大学見学に来訪した高校生には、高校と大学との違いを解説し、大学進学を「目的」とせず、日々の学校生活で心がけてほしいことを伝えています。

また、自分の将来や社会にも目を向けて、誰の、どんな困りごとを解決したいのかも考えた学部選びを示しています。



プログラミング (動きを指示する)

児童・生徒が理解し、実践しやすい教え方は？

情報学部地域連携推進室では、近隣の学校と連携して、ICTを活用した教育の推進に取り組んでいます。また、同学部の遠山紗矢香准教授の研究室では、プログラミングを学ぶ初心者が学びを深めるためにどのような支援が有効か、その方法を研究しています。



キャラがジャンプするように変えてみたら？

小学生がもっと楽しく学べる方法は？

ボランティアで児童生徒の学習を支援しています



情報学部地域連携推進室の事例

学生が、浜松市内の公立小・中学校にボランティアとして出向き、児童生徒のICTを活用した学習をサポートしています。わかりやすい講座を作るための経験が、学生たちの学びを深めています。

ICTを活用した教育方法を 学習者目線で開発しています

遠山紗矢香

情報学部 准教授

学校ではデジタル端末が文房具と同じように使われている中、児童生徒や学生が主体的に学び、できることを増やす方法の開発を進めています。誤答を手がかりとすることで、どのように支援をすればよいのかを効果的に検討することができます。



グローバル (世界とつながる)

子どもたちの英語力向上、国際交流をサポート

グローバル人材の育成を目指し、学生たちが地域の子どもたちに英語を教える場を創出したり、ITを活用し、海外の学校と県内の学校を結んで国際交流を行うプログラムなどに取り組んでいます。

磐田市の地域の人々と連携して 子どもたちに英語を指導

事例 2002年から教育学部と磐田市の地域の人々と連携し、英語教育専修の学生が、毎週土曜日に年長児から小学校6年生までを対象とする「しきじ土曜倶楽部」で、英語と総合学習の指導を行っています。毎回チームを組んで、創意工夫しながら授業づくりに取り組んでいます。



遊びの中から英語を学べるように

挑戦意欲を身につけたり、感動したり、友だちをつくったりできる時間に！

タイの学校と静岡聖光学院の 生徒の国際交流を支援

事例 教育学部、教職大学院、人文社会科学部の学生・大学院生と教育学部英語教育専修の大龍綾乃講師は、静岡聖光学院中学校・高等学校で行われたプロジェクト『メタバースを活用した探究／協働学習・リモート国際交流の実践』に参加。同校の生徒とタイ王立 Vajiravudh Collegeの生徒が同じメタバース空間に入り、英語で交流しました。



本学の教員や学生はファシリテーター役として円滑な交流を支援

実施に向けては情報学部の遠山研究室が協力しました

※写真提供：静岡聖光学院中学校・高等学校